

## ○長岡地区タウンミーティング議事録（概要）

日 時：令和4年10月15日（土）

午後2時から午後3時15分

場 所：長岡小学校 体育館

出席者：72人

### テーマ1 上下水道事業について

<主な説明事項>

- 1 富山市の上下水道事業の歴史
- 2 上下水道事業の課題と取組み
- 3 配水幹線・配水ブロック・防災拠点機能の整備
- 4 呉羽地区の浸水対策
- 5 バイパスと貯留地の整備
- 6 雨水幹線の水位予測情報の配信
- 7 下水道普及促進事業
- 8 ご家庭での災害対策～水道水の保存方法～

#### 【上下水道局の説明に対するご意見】

・市長をはじめ、富山市上下水道局、消防局だけでなく、富山市の各部局におかれましては、日頃から住民の生活の向上についていろいろとお考えになって努力をしていただいていると思っております。長岡地区においても昭和40年代から宅地開発が進み、住宅が増え、それに伴って水道をはじめインフラの整備が行われてきましたが、それから60年経ち、水道の老朽化が進んでおります。今ほどお話にありましたように、その更新についていろいろと努力していただいていることは重々わかりましたが、さらに努めていただきたいと思います。

長岡地区近傍の富田町では、大雨によって道路の下のマンホール、あるいは下水

管が破損して道路が流れ、陥没したということが最近起こりました。これらについても速やかに直していただきたいと思っています。

それから、一部では、大雨になってマンホールから水が噴き出すことがあり、お聞きすると、今使っていないマンホールであるというお話でした。これも修繕あるいは更新ということになるのですが、確実に古く使用できなくなったものについては、やはり始末をするということもお願いしたいと思います。

また、日頃ゲリラ豪雨などが大変多くなっており、下水・雨水の処理も大変重要なことになってきております。長岡については、大きな川の氾濫は心配しなくてもよいのですが、やはり排水路の水があふれて、内水氾濫により家屋が水に浸かるということも起こり得ますので、そのようなことがないようにしていただければと思います。地域に密接に絡んでいる水道ですので、安心して私たちが使えるようにお願いしたいと思っています。

## テーマ2 救急出動の現状などについて

### <主な説明事項>

#### 1 救急出動の現状と応急手当について

#### 2 住宅防火について

- ・富山市の火災状況と原因
- ・配線器具等の取扱い
- ・住宅用火災警報器の維持管理

### 【消防局の説明に対する質問】

・消防におかれては、私たちの生活を守るということで、大変なお力をいただいております。今ほど説明のありました救急についても、防火消防についてもそうです。また、様々な大きな災害についても、全国的にも消防の皆さんに対応していただいている姿を見るわけであります。いろいろな形でご努力いただいていることに、感

謝申し上げたいと思います。自分たちは自分たちで身を守るというのはやはり基本です。先ほどからありますように、救命救急の講習などを実施されており、(引き続き) よろしくお願ひしたいと思ひます。それで、先ほどの水道の話で老朽化や更新の話が出ていましたが、消防については消火栓等、あるいは消防周囲の様々な資材についても、老朽化や更新等ほどのような状況になっているのか教えてください。

(消防局長)

消火栓などの更新につきましては、水道管の工事に合わせて行っております。また、消火栓が富山市内全ての位置を網羅しているかを調査しまして、足りないところに新しい消火栓を付けるなど、計画的に行っているところです。

### 【その他意見交換】

・小学校の統合について、市としては何年ぐらいを目途にされていますか。加えて、一番問題なのは通学手段です。それをどのように解決されるのでしょうか。また、小学校が無くなると地域性が無くなってしまふという可能性がありますが、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

教育委員会が中心になって小学校・中学校の統合再編を進めておりますが、地域の皆さん方からは、今おっしゃられたようなご意見を伺っていると聞いており、これは本当に大事な問題だと認識しています。何年頃を目途にとということですが、これは何年と区切ったわけではなく、ある程度地域のほうから、やはり生徒も減ったし、適正規模を目指して統合すればいいのではないかと、そのような同意の声が上がってきて、地域が動き出したそのタイミングを我々は尊重したいと思っておりますので、案は示しましたけれども、それをしなさいという強制ではありません。ただ、これからもお子さんが減っていきますので、ある程度、団体行動であるとか、合唱や団体競技なども含めたたくさんの友達の中で出来る活動、集団生活を児童・生徒に体験させてやりたいと思ったら、やはり地域からもそのような声が上がってくるのではないかと考えています。また、地域の方々（には）一生懸命考えていた

だいて、もちろん（検討には）教育委員会も入りますし、我々市長部局も必要であれば入っていきますので、何年ということは今のところ考えていないので、そのように捉えていただければと思います。

通学が遠くなるというのは本当にその通りであります。すぐに考えられるのはスクールバスです。このような対応をしたいということを教育委員会から伺っておりますし、保護者の皆さんからすごく心配な声が上がっていると、その声は私も教育長から聞きました。その地域に合ったようなスクールバスの回し方であるとか、そのようなもので対応していきたいと考えております。

そして地域性が無くなるということは、これは地域の方々から伺う多い声の一つであります。富山市は小学校ごとに市立公民館と地区センターを置いて、地域の住民サービスが低下しないように、確保してきている現状があります。これは森雅志（前）市長が発案されて、絶対無くすなということで、小学校を統合しても、旧校区ごとに公民館や地区センターを置いて住民サービスを続けておりますし、私も無くしてはいけなないと考えています。小学校区をエリアとして考えた場合、校区の住民の皆さんの活動は、やはり公民館が主になってくるのではないかと考えております。それと、やはり小学校単位で、小学校を中心に地域の文化があるんですね。生活もそうです。そのような面で言うと、小学校をできれば残したほうがよいということは、私も全く同感であります。ただ、適正な教育ができなかったり、集団での学びが提供できなかったりするるので、それを提供できる適正規模にしていこうと、悩ましいところではありますけれど、そのように考えているわけでありまして。これからは色々な議論をしながら進めてまいりたいと思います。ただ、教育委員会が示したもので、これでやりなさい、ということは絶対にありませんので、しっかりと考えていきたいと思っております。今日の意見も教育委員会に伝えたいと思っております。

・地中に埋められている管全てについて、富山市内の高度成長期に埋められた管は、ある程度耐用年数に来ていると思うのですが、色々な調査をされて、どのくらいの頻度で、どのくらいになっているかということは調べられているのでしょうか。主

管と枝管の話がありました、数十億円、数百億円の金額になると思うので、その辺をお伺いします。

(上下水道局長)

水道につきましては、先ほど申し上げましたように、まず配水幹線を中心に整備を進めており、配水幹線については 70%ほど耐震化工事が進んでおります。それ以外の水道管につきましてはまだ 50%未満であります。こちらにつきましても、老朽化が進んでいる管がございますので、順次、幹線と一緒に整備を進めておりますが、すべてが老朽化してはいないので、漏水のある箇所や材質など、いろいろなことを吟味しまして、優先的な箇所を中心に整備を進めているところであります。

加えて、下水道管につきましては、まず、古い下水道管はヒューム管とって、昔はコンクリート管で整備しておりましたが、こちらについては、順次、中を見ながら、特に整備が必要なところについては中から補修をしたり、それで駄目なら掘り直したりしているところで、コンクリート管については 90%近く終わっております。それ以外のところについては、ビニール管・塩ビ管というもので、比較的新しい時代に整備したところもございますが、こちらについては今後、老朽化する可能性もございますので、どのように整備・更新していくかということも含めて、現在研究をしているところであります。

・フットパスの工事について、匿名の方が 1 億円を出され、そしてその趣旨を考慮して富山市が 1 億円を出して工事を始めると聞いておりました。そしてこの工事は、発注段階において逮捕者が出て、色々と問題があった工事であります。現在は JV3 社、佐藤工業・川田工業・松原建設が、来年の 3 月（完成）を目途に工事をしております。その工事費に約 13 億円が計上されており、なぜこれほど工事費がかかったのか、過去の経緯、あるいは今後の見通しについてお話ししていただきたいと思っております。併せて安全対策ですが、ここ呉羽山は活断層があり、工事について耐震対策、融雪含めた耐雪、耐風等の安全について大丈夫なのか、どのような設計で行っているかお聞かせください。

(市長)

正確なことは、建設部から文書でお答えさせていただきたいと思います。フットパス橋梁の件については、ご当地呉羽の案件でもあり、市民の皆さんに大変ご心配をおかけしております。

呉羽丘陵は古のロマンが詰まった丘陵であります。富山県の東西の真ん中に断層帯があってこのような丘陵があり、(丘陵を境に)西の文化と東の文化が違います。我々の住む近くにも王族の古墳や貝塚があったりと、古くから呉羽丘陵一帯で人々は(生活を)営んでいました。戦国時代や、その後も色々な武将が呉羽山を舞台に活躍しました。それを我々の都合で(旧国道)8号線を作るときに分断したわけがあります。これは歴史をぶった切った(ということであり)、それをフットパスでつなげようという、非常にロマンのある事業が呉羽丘陵フットパス事業だと思えます。ご当地から森雅志(前)市長が誕生したこともあり、呉羽山一帯の価値観が見直されました。そこで旧観光ホテルの跡地も含め、フットパスを中心に一帯を整備していこう、分断された城山、呉羽山一帯を一つのものとして活性化しようという夢のある構想が出来上がったわけがあります。

当初2億数千万円だったものが13、14億円になったということについては、耐震・耐雪・耐風をしっかりと診断していくなかで、例えば地盤が軟弱であるところには深い杭を何本も打たなければならない、構造的にもたせなければならないということが後にわかってきたり、その橋周辺を公園として整備するという計画もあり、雪対策も含めて、安全性ということからも、仮設工事にも当初の倍以上のお金がかかることがわかってきました。そうしたことから我々もなぜこれほど高くなったのかと当初驚きましたが、安全に施工して、安心の持てるものを住民の皆さんや観光客に提供するにはやはりお金がかかるということで、工事費が増していった経緯がありました。

私は森雅志(前)市長の政策を受け継いで、途中まで進んでいた事業をしっかりと完成させてこの呉羽山のもつ歴史的な丘陵の魅力を再度復活させていきたいという思いでいます。呉羽の人だけではなく富山市民の誇りになるような場所になって

ほしいと思っておりますので、そのようなことも含めて、しっかりと呉羽丘陵フットパス一帯の広場の整備を進めてまいりたいと思います。

私の説明の中でやや具体性に欠ける耐震あるいは耐雪、強風に耐えうるような構造、安全性等につきましては後日文書で回答させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(後日回答)

ご質問の耐震構造につきましては、構造上重要となる構造箇所について、日本道路協会の「道路橋示方書」に基づき設計しており、設計地震動には、橋の供用期間中に発生する確率が高い「レベル1」地震動と、橋の供用期間中に発生する確率は低いがより大きな強度を持つ「レベル2」地震動がありますが、本橋梁は東北地方太平洋沖地震や熊本地震に相当する「レベル2」地震動による耐震設計を実施しております。

次に、落雪対策につきましては、鋼製の橋桁を逆台形とし、内側向きの傾斜を設けることで桁側面に着雪しにくい構造にしているほか、橋梁の路面には全面にロードヒーティングを設置し、県道富山高岡線への影響範囲内のメインケーブルにもヒーティングを設置することで、落雪の原因となる雪そのものが積もらないような対策を行っております。

また、風対策につきましては、日本道路協会の「道路橋耐風設計便覧」に基づき、風向・風速に関する現地での計測データや過去の富山地方気象台の観測データを照らし合わせ、設計に用いる基準風速（10分間平均風速）を毎秒35mと設定しております。これを基にした構造検討においては、吊橋模型を製作し、学識経験者の協力を仰ぎながら、この設計便覧に基づく室内風洞実験を行い、設計基準風速を超える風速や異常な振動が発生しやすい風速など、様々な条件の下で安全性を確認しております。

<回答担当課>建設部 公園緑地課

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)